

♪ シニア便り ♪

○ 定期演奏会の成功に向けて

第17回定期演奏会・実行委員長 (トランペット) 鈴木 隆起

○ 新入団員のごあいさつ

『運命の出会い』	バス・クラリネット	石田 由紀
『多趣味』	トロンボーン	大澤 美和
『親子でパーカッション』	パーカッション	北野 暁子

○ もっともっと・楽団創り

『創設時の志を新たに』	副団長・常任指揮者	中村 暁生
-------------	-----------	-------



第14号 (2010年2月発行)

発行 北海道シニア吹奏楽団・事務局
編集 シニア便り・編集部

定期演奏会の成功に向けて

第十七回定期演奏会実行委員長
トランペット・バート 鈴木 隆起

2010年度第十七回定期演奏会は、昨年春の総会での決定に基づいて、トランペット・バートが実行委員になり計画実行することになっています。既に皆さんから演奏曲を募集し、その準備を進めているところですが、ここでもう一度、第十七回定期演奏会の基本的なコンセプト等やこれまでに決定したことについてお知らせします。

①演奏会のテーマについて

実行委員会の話し合いで全員が一致した事は、自分達のやりたい曲ばかりを集めた混沌とした演奏会ではなく、従来もそうだったように、「一つのテーマ性を持った演奏会にしたい」という点でした。そこで、メンバー全員が意見を出し合いながら決定したのが「宇宙」というテーマです。「宇宙」をテーマとした理由は、主に以下のとおりです。

- ・映画「2010年」にあやかっぺ…
- ・子供達に夢を与えたい…
- ・来年は宇宙の話題が有りそう…
- ・「テーマ」らしいテーマだ…
- ・新首相のあだ名が「○○人」だから…
- ・日本ハムの梨田監督が「ファン」の皆さんは

宇宙一だ！と叫んだから…

…等々

検討の初期には、「2010」という数字のキリの良さがポイントとなり、例えば「2010年で生誕100年になる作曲家は…」とか「2010年に予定されている大きなイベントは…」といったものも調べましたが、決め手に乏しく、一時は難航しました。

そうしているうちに、「2010年」の年号そのものがタイトルのSF映画が話題になり、その映画の内容である広大で謎めいた宇宙の旅ではどうか…ということになりました。

しかし、映画にこだわってしまうと、そのBGMなどの演奏に陥りやすいので、映画はあくまでも発想のヒント程度にし、「宇宙」というテーマについても、関連のある「星」や「月」、「太陽」など、宇宙に関わるものもテーマの一部としてOKとしました。

②ステージの構成について

ステージは、これまでの雰囲気や大事にして、大きく三つのステージ構成を基本にします。

- ・第一ステージ…主に吹奏楽オリジナル・クラシック系の曲目
- ・第二ステージ…小学生の演奏と合同演奏
- ・第三ステージ…ポップス系の曲目

第二ステージを受け持ってもらう小学校については、学校への依頼が早い方が良いこともあり、前回に引き続き、旭小学校に

お願いすることになりました。

また、小学生との共演は、「シニアとの交流を通じ、楽器演奏に対して、より一層の親しみ、愛着を持ってもらうことにより、末永く音楽を愛する人材を育てたい」とのシニア伝統の考えに基づいています。更に、単発の共演で終わることなく、三年程度（楽器を始めることが多い四年生から六年生までの三年間というイメージ）の連続した共演が有効との考え方で実施してきた経緯があります。

それゆえ、旭小学校の児童との共演は、昨年に引き続き、今年も二回目として継続的に取り組むことになりました。

③特別演奏について

共通テーマは「宇宙」がキーワードですが、あまり固執し過ぎると、聴いてくださる皆さんに「これでもか！」といった押しつけになる恐れがあります。

そこで、違った味の清涼剤のような場面を作りたい…ということでも、めでたく「古稀」になられたホルンの勸米良さんのお祝いも兼ねて、以前から計画していたモーツァルトの「ホルン協奏曲第三番」の演奏をお願いすることにしました。

勿論、ホルン・ソロは勸米良さんです。どのステージで演奏するかは未定ですが、さっと話題になるでしょう。

④今後の予定

定期演奏会は十月二十四日ですが、あつという間にその時は来てしまします。

今から決められるものは、どんどん決めて、ゆとりを持って演奏会当日に望みたいと考えています。

今後は①試奏曲からの選曲 ②実行委員会内での分担決定 ③舞台イメージづくり ④チケット等の作成 ⑤広告募集…等々、目白押しですが、役員を始め、皆さんの協力も頂きながら進めていきますので、宜しくお願いします。なお、相談事項や決定事項は、事務局の協力も得ながら、逐次、お知らせしていくことにします。是非、ご注目下さい。

新入団員のあいさつ

『運命の出会い』

バスクラリネット 石田 由紀

スッペ作曲「軽騎兵」。私が初めて聴いた吹奏楽の曲です。中学校に入学し吹奏楽部を見学した時、先輩がコンクールに向けて練習していました。開校まもない中学校で楽器も揃いで、部員も少数でしたが、学芸会の器楽演奏程度しか知らない私にはとても壮大に聞こえ、特に中間部の低音から綺麗に駆け上がるクラのソロに目を奪われてしまいました。合奏後、顧問の先生に「やりたい楽器はあるかい？」と聞かれ「あの黒い楽器がやりたいです！」と即答していました。高校には吹奏楽部がなかった為、自分の

クラリネットはありましたが吹奏楽からは遠のき、社会人になって再び吹奏楽が出来るとは思っていませんでした。

思えば吹奏楽を再び始める事になったのも、こうしてシニア楽団にお世話になる事になったのも、大きな「縁」で引き寄せられたようにさえ思える偶然の連続でした。特に、今楽器をお借りしている方との出会いは本当に忘れられません。

それは、ある参加者自由の演奏会が札幌で行われた時の事でした。当時も借り物のバスケットを持参し参加していた私の隣で、バスケットの倍以上ある大きな楽器を用意している人がいました。その大きな楽器はコントラバスケットでした。「噂には聞いていたけど実物を見るのは初めてです」などと二言三言言葉を交わし、休憩時間「吹いてみますか？」とその方は気軽に誘ってくれました。「自分でこんな凄い楽器を持つているなんて、なんて凄い人なんだろう！」と感動しました。

その後ある楽器屋さんでとても良く似た人とすれ違いその時は「あれ？」と思っただけでしたが、何度かのすれ違いの後で、思い切つて楽器屋さんで尋ねたところ、シニア楽団にいらっしゃると聴き「運命の糸」を感じました。そして願いが叶い昨年シニアに入団させて頂き、定期演奏会で一緒の舞台に立つことができました。とても夢のような気分です。

大げさに聞こえるかもしれないが、世の中全て「縁」があるから出合っていると思ふのです。この度、シニア吹奏楽団のお仲間に加えて頂き「還暦を過ぎても楽器

を吹いていた」という私の老後ビジョンが現実味を帯びてきました。私もこの先、健康、そして仕事と家事の両立が許す限り楽器を続けていきたいと思つていきます。どうか皆さん、このように声も態度もカラダもデカく、大げさな私ですがよろしくお願い致します。

「多趣味」

トロンボーン 大澤 美和

私は自他共に認める多趣味人です。登山、スキー、パークゴルフ、キャンプ、温泉、映画、カラオケ、ビール、日本酒、そして音楽。

中学・高校と、吹奏楽部の六年間は本当に楽器を吹くことしか興味が無かったというか、楽器を吹く以外のことをする暇が無かった反動で、社会人になり色々なことに興味を持つようになりました。

高校卒業から一度も楽器を吹いていなかった私が、急にまた吹きたいと思つたのは、「のだめカンタービレ」という漫画を読んだからです。音楽で「いいな」と思っているから読んだ。念願がかなって、シニアに入団できましたが、何十年か振りに楽器を吹くって本当に大変で、音は鳴らない、大きな音は出ない、高い音は出にくい、音はかすれる、唇が痛い、おまけに肺活量が無いから音が続かない……家で練習すれば愛犬に吠えられ、河ぶちで練習すれば散歩中の犬に吠えられ……そんなこんなで、早くも今年三回目の定期演奏

会です。

去年よりは音も出るようになり、自分の目指すトロンボーンの音に少し近づいているのでは、と思つている今日この頃。調子が良いときには楽器のベルが振動するときもあり、自己満足に浸っているのです。バストロンボーンにもようやく慣れてきました。

いつもは、パートの三人のおじ様方に支えられているのですが、いつかはどしどしと支えられるような豊かな響きのある音が出せたらいいな、そしていつかはソロが吹けるようになる時が来るといいな。これが、今後の私の目標です。

ちなみに、趣味の登山は登っている途中は辛いですが、山頂に着いたときの達成感と充実感とビールが最高です。残雪がある山では途中でビールを雪に埋め、下るときに拾い、それを温泉につかりながら飲むんです。ん〜最高ですよ！今年、富良野岳や黒岳に登れたらいいな。

スキーは、バフバフの深雪に埋もれながら転がり落ちていくのが楽しいです。最近ではかんじきや、スノーシューを履いて裏山の探索なんかも楽しいと思つています。そして、疲れた身体を温泉に浸かって癒し、おでんを食べながら熱燗をぐいっと！冷でもいいかも。もちろん大吟醸で(笑)。

「親子でパーカッション」

パーカッション 北野 暁子

私は昨年の夏、シニア吹奏楽団に入団させて頂きました。高校一年からパーカッションを始め、上手ではないのですが楽しく三年間演奏してきました。

卒業後も某市民吹奏楽団で五年間続けてきました。その後、結婚、出産、育児、仕事で自分の趣味に時間を費やすこともできず、やっと子供達から少し手が離れたので、再び吹奏楽に参加したくなり、札幌で吹奏楽団を探し始めました。

パーカッションは、入団するまでに色々難しいことが多く、何か所か見学に行きましたが、楽器があまり無いのにパーカッションの人数が沢山いる所、楽器を毎回団員の車で運搬している所、練習場所が毎回違ったり、練習場所が遠かったり、練習時間が夜だったりと私には条件が合わず、やっぱり無理かなあと諦めていました。

その間に、長女がスクールバンドに入ると言いだし、私も大賛成でしたが、娘が選んできたパートは何とパーカッションでした。血筋なんだろうかとね？

そんなこんなで、スクールバンドの練習や演奏会などの手伝いに忙しく、自分のことは忘れていましたが、あるとき(多分冗談で)夫が「お母さんも吹奏楽やればいいよ」と。……と「やったー、協力してくれるってことだな」と本気で探し始め、とあるところで「シニア吹奏楽団のパーカッションが現在0人です」とのお話を聞き、高校の同

級生の澤井さんと一緒に見学に行きました。するとその場で合奏に参加することになり、即入団することになっていました。

シニア吹奏楽団は私の希望する条件にピッタリで、皆さんとても親切な方が多く、楽しく参加させて頂いています。

ただ大きな悩みは、私は演奏が下手なことです。皆さんもお気づきかと思うのですが、下手なんです。今まで所属していた楽団にはドラムの得意な方がおり、ほとんどの方が担当していたこともあって、ドラムが最も苦手です。でも、せっかく入団させて頂いたのです。一所懸命練習して上手になろうと思っています。

長女はというと、小学二年生で入部したのですが、パーカッションの先輩が卒業でいなくなり、ドラムを担当することが多くなりました。母よりも覚えが良く本番にも強いようで、母は負けています。(娘には内緒ですが)今後は母の意地で頑張りたいと思います。

ちなみに、こちらも皆さん気づいているかも知れませんが、私はお酒が大好きです。子供もいるのであまり多くの呑み会には参加できませんが、参加した際にはよろしくお願ひします。



◆ もっともっと・楽団創り ◆

「創設時の志を新たに」

副団長・常任指揮者 中村晩生

「北海道シニア吹奏楽団」は平成五年六月に誕生し翌七月、わずか七名のメンバーが「かでる 2・7 リハーサル室」に集まって音出しをしてから十六年、今や五十名に近い団員を擁する大きな団体に成長し、それとともに年一回の定期演奏会以外に各種機関からの依頼演奏にも対応を迫られるようになってまいりました。

十五年を超える歴史、団員の皆さんが持つ多彩な経歴と能力、周囲の状況の変化、これらを総合して考えると団は今、間違いなく転換期を迎えていると私は感じています。

一つは一個の団体としての内部的なあり方であり、もう一つは外部(お客様)に対する演奏団体としてのあり方の検証だと思っています。

あらためて団の規約を読んでみますと、第五條の目的に次の三つのことがかかれています。

- 一、技術の向上のみに偏らない。
- 二、音楽を楽しみながら団員相互の親睦を深める。
- 三、活動を通じて地域文化の発展に寄与する。

とあります。

二十代から七十代までの非常に幅広い年齢層と、ハッキリ申し上げて大きな演奏技術の差を持つ演奏団体を寡聞にして私は他に知りません。この二つの差を許容し合い信頼し合える大人の集団、それが所謂「シニアらしさ」の根源であり、将来に亘って持ち続けなければならぬ団の理念であると思っています。

もう一方、演奏団体としてのあり方を考えるとき、演奏技術の向上ということに避けて通ることの出来ない課題でもあります。(規約は演奏技術の向上を禁じているわけはありません)

幸い当団には音楽的に豊富な経験をお持ちの方が大勢おられますのでご協力を戴きながら、決して無理をすることなく少しずつ進めて行きたいと考えています。

音楽とは何か、良い演奏をするためには何が必要か等についての考えは、後ほど項を改めて述べるつもりでいます。

事務局からのお知らせ

当団のホームページを利用されている方も多いと思いますが、昨年十二月十日にホームページをリニューアルして団員専用ページを設けました。閲覧にはパスワードが必要ですが、これまで団員連絡や掲示板など団員以外でも閲覧可能でしたが、今後は団員のみが閲覧可能となります。これにより、定期演奏会の演奏曲目の周知や詳細な練習スケジュールなど

従来にも増してきめ細かなサービスが可能となります。

団員の皆さん、大いに活用して下さい。なお、パスワードを失念された方は事務局・伊藤まで連絡下さい。また、ホームページの改善要望なども、お寄せ下さい。

団員への周知・連絡はホームページのみに頼ることなく、これまで同様に緊急時の電話連絡、練習日での口頭連絡、印刷物配布も確実に実施して行きます。よろしくお願ひ致します。

● 編集余録 ●

・北海道シニア吹奏楽団も五十名近い団員規模になり、毎回練習に参加できない方も多くいらっしゃいます。そこで、「シニア便り」で、少しでも団員のコミュニケーションが図れたら... と思っております。

しばらくの間、不定期発行だった「シニア便り」を、年3回を目標に発行できるように努力して参ります。よろしくお願ひ致します。(加藤)

・シニア吹奏楽団も創設から十七年目を迎え、転換期と言う節目を感じています。今号から新しく「もっともっと・楽団創り」と題する欄を設け、今後楽団をどのように維持・発展させて行ったら良いのか等々、様々な団員の方々に執筆してもらおうと思っています。今号は中村先生に執筆をお願いしました。団員の皆さん、是非一読下さい。(伊藤)